



# 1町議会報告 総額一億三千万円

## 予算議会終わる

毎年三月に行われる定例議会は一年中の予算や、予算に伴う一連の議案を審議する最も重要な議会である。ことしは三月十九日にこの第二回町議会定例会が招集されたが、当日は町税徴収条例の一部改正案一件を議決し、次いで上程された三十四年度一般会計予算について総括質疑を行った後散会した。翌二十日から二十六日まで議案整備のための休会、二十七日に再開して予算審議を続行、翌二十八日まで各種予算案十件、条例の改廃六件を含む二十七の議案と十九件の請願全部を議決して会期の幕を閉じた。

なお、前後三日の会期中に議決成立した予算のうち、三十四年度分一般及び特別会計七件を合計すると一億四千四百万円の巨額に達する。このうち繰出金等の重複する部分を除いた純計予算は一億三千八百八十六万六千円で、これは川西町の住民一人当たり約八千円となる。

## 増徴条例を可決

三月十九日開会へ、頭上程された町税賦課徴収条例の一部改正案は、懸案の固定資産税の税率を改める条例であるが、これが本定例会の可決第一号となつた。

改正の概要は、従来百分の一・四であつた固定資産税の税率を百

分の一・六に改めたもので、これによつて約七百十万円が増徴されることになるが、ただし書きによつて国鉄分については百分の一・五を適用することとなつたのである。

## 一般会計八千八百万

### 前年より一割増

三月二十七日に議決された昭和三十四年度川西町一般会計予算は総額八千七百七十四万七千八百二十四円である。これは三十三年度当初予算と比較して一〇パーセント八百二十一万五千七百十円の大増となつている。その原因を費目別にみると、歳入では、町税が三十六万円減になつているにもかかわらず、地方交付税が四百七十七万円のほか、ポンプその他消防施設、地元の負担や保育費の保育料、失業対策事業の地元負担金等二百二十七万円の増、繰越金九十万円の増等があげられる。

歳出では、減つたのは財産費、統計調査費、諸支出金の三項目だけで、あとの十一項目は全部増となつている。中でも災害復旧や土地改良費を含む産業経済費の二百六十七万円増が最も多く、次いで保育園費を加えた社会及び労働施設費の百四十五万円増、役場費の百三十九万円増、消防費の百十四万円増、教育費の百四万円増、予備

し引き四百三十万円の増徴となるこの条例については、提案に先立つて自治庁、県等の意向も打診し、慎重に検討されて来たもので、新年度予算の成否を左右する重要な議案の一つであつたわけである。

したがつて、質疑、討論も活発で、真剣な審議が行われたが、提案者の強い決意が確認されて、結局原案どおり可決されたのである。

〇国民健康保険 総額二千三百二十三万九千九百九十四円前年度に比べて三百五十七万七千七百円増である。歳入では法改正に伴う国庫補助金の増並びに一般会計からの繰入金の大増増等があるが、繰入金の大部分は橋診療所の改築費並びに千手診療所自動車購入費等に充当するため、両診療所会計へ繰り出すものである。

〇千手診療所 総額一千二百一十八万五千六百四十六円一万五千円増である。増加の原因は人件費の自然増と自動車の購入費で国保会計から百十四万円を繰り入れ収支を合わせてある。

〇橋診療所 総額一千四百四十五万二千円、約三百四十四万円の増である。橋診療所は本館の改築を行うこととなつたのでその建築費が増となつたもので財源としては国保会計から三百三十万円の繰り入れのほか、国庫補助七十万円等がある。

〇学校建築 これは仙田小学校高倉分校改築のための予算で総額六百五十万、財源としては国庫補助八十萬、一般会計からの繰り入れ金二百萬、起債三百七十七万である。

〇新農山漁村建設 本年度は西部の仙田地区がこの事業の指定を受けているが、今回の予算は事務費十五万円を計上したのみで事業費は国の補助額決定後追加計上される。

〇産業育成資金 これは町の商工業者に対する融資のための特別会計で、財源は一般会計の繰入金三十萬、県からの借入金五十萬である。

三十三年度分追加更正 三十三年度分最後の追加更正予算は一般会計並びに国保、千手診療所特別会計について次のとおり議決された。一般会計の追加は二百三十万で、その累計は九千六百九十二万円となつた。追加の主なる費目は、消防費七十三万、土木費四十一万、有線放送補助五十五万等、財源は地方交付税八十三万、上野小学校旧校舍売却代百四万その他である。

国保会計については歳出の一部を更正して千手診療所へ八十万円を繰出したもので総額に変わりはない。千手診療所会計は右の八十万円を繰り入れて、住宅費上代、建物修繕費等に充当したものである。

花園文子一行を招く 多彩な祝賀行事

香よう十日は皇太子さま御成婚の日。すつかり春のいづれもなく桜も満開とあつて、このところ町内では多彩な祝賀行事がくりひろげられている。

すでに盛大な「ちはな祭り」(四月三日、橋中学校で開催)が暮れとしたが、長者ヶ原に咲く桜と相まつて、千手地区商工会の観桜行事も次のように決まつた。

①一四・五日 ダンスパーティー

①一八日 名士のかくし芸大会

①二六日 子どものお宝さがし

①一六・七日 民謡大会

なお町では花園文子とレディパンドの一行を招き、次の予定で国

保の被保険者を慰安することになつたが、みなさんからも多数の入場を望んでいる。

一、とき 四月十九日

・ヒルの部 午後一時より

・上野、橋、仙田の人たち

・ヨルの部 午後六時より

(千手の人たちに)

二、ところ 千手中学校体育館(屋外に変更することもある)

三、演芸種目、歌謡曲、腹話術、漫談、奇術、楽団演奏など

## 庁内人事

税務係の清水光子さん(上野)と、星野一枝さん(発電所通の)ふたりが三月末で退職した。

清水さんは七年、星野さんは二年、公務員としての本分にもとることなくよく勤務してくれた。

花咲く春にさきがけて紋場を去つたおとめたちには、それぞれのしめわさがまつているが、職場の花といわれた明るい顔が見られなくなつたことは寂しい。

なお後任として上村方さん(上野支所)が本庁勤務に替つたほか、昨年十日町高校を卒業した小林竹野(中央町)大漢光子(上町)高橋トシ(中屋敷)さんの三人が、臨時職員(四月一日付)として採用された。

## おしらせとお願ひ!

前号で銃砲刀剣類の届出を勧奨しましたら、六十数件の届出がありました。なお四月末まで三月と同じく取り扱いますから、よく探してすみやかに届出てください。(川西部長派出所長)



# 「新表記法への放言」④ 送りがなの混迷

丸山精二 郎

### 混乱する二つの方式

「生まれる」と書くべきなのか「生れる」とよいのか。どちらも誤りではないといつても、同じ文章の中で両方を混用したのでは統一のない、見苦しい表記となつてしまふ。送りがなの混迷、それは漢字とかを混記する表記法を改めない限り、果てしなく繰り返される問題であろうか。

現在行われている送りがな法を大別すると、「生れる」と書く公用文式と、「生まれる」と書く教科書式の二つがある。公用文式はだいたい、その語の活用語尾だけを送り、教科書式は、変化しない部分に活用形を含んでいる場合はその活用語の語尾から送る、というのがたてまえである。「生まれる」の「ま」は変化しないが、「生じ」という他動詞の場合は変化する部分であるから「ま」から送るのである。したがって、公用文式では「押える」「曲る」「浮ぶ」と書くところを教科書式では「押さえる」「曲がる」「浮かぶ」と書く。教科書式は、誤脱を避けたり、漢字の部分の読みを一定にするという特長があるが、字数が多くなるという欠点もある。しかし、中には教科書式と公用文式が全く反対の送り方をする例もある。この二つをはつきり区別して使い分けることは、実際問題として困難である。官公庁の公文書

だから、正確に公用文式の送りがなで一貫した表記をするというところは決して簡単なことではない。一步を踏つて、それほど神経質にいずれか一方に統一しなくてもよいとしても、同一の語について違った送り方をするということだけでもたいへんなことなのである。

### すつきりしない統一案

そこで、これらを統一しようとして昨年十一月十八日に発表された国語審議会案はどうであろうか。基本方針の第一(活用語およびこれを含む語は、その活用語の語尾

春、四月、野山も人も新鮮な出発でございますね。毎年今ごろになると古い歌を思い出します。こぶしの花の咲くころにひとりはおよめにきました。ひとりはおよめにきました。現代の社会では女の生きる方法がいくつでもできました。とはいつてもやはり、およめにいく

## ある女教師の手紙

(1)

は本格的な生きかたのようです。女であることと、教師であることを一一致させるのはひどくむずかしいのですが、自身の女教師であるわたくしが女性としてわざ道を歩いていると決めたことはありません。女の先生もとはこのことは、体力、知力も劣り、小間使いじみた働きしかできない女の、古い香がこもつていたようです。

を(送る)という原則は教科書式をさらに徹底したものであることは「起す」「終わる」「悔やむ」等の例を見てもうかがわれる。この方針で一貫しておればきわめてすつきりするのであるが、方針の第二(誤脱・難読を避ける)第三(慣用尊重)に比重を置き過ぎたため、せつかくの原則がぼやけてしまつて、われわれをおびただしい例外の中にならざるを得ない。原則どおりに書けば「行な」「断る」「押さえる」「悔やしい」「打ち切る」「申し込み」となるところを、誤脱・難読を避けるためには「行なう」「断わる」とよけいに送つたり、そのおそれがなものは逆に「押える」「悔しい」「打切る」「申込み」と送るべ

かからずこの川西に転じたわたくしも、能力乏しいならぬ点ばかりですけれど、古い香の女の先生でなく、働き、生きたいと存じます。実を申しますと都会育ちのわたくしはへき地勤務がうれしくありませんでした。しかしまてみます

きかなも省略する。ただし、「打ち切る」「申し込み」とあとの語をかんで書く複合語は、前の動詞の送りがなを省かない、と例外にただし書きがつく複雑さである。ただし書きがどうも疑問だが、「行なう」「押さえる」「悔やしい」と原則どおりに送ることがどうしていけないのであろうか。誤脱・難読のおそれのある語は多く送り、そのおそれがなければ送るべきかなも省き、慣用の固定しているものはそれに従ふ。一見合理的に見えるこの方針も、実際には判断に迷つて、統一しないと同じ結果になりそうである。例外はできるだけ少なくすることが望ましいが、やむを得ないものは、その範囲を限定して、網羅的にはつきりと示し、だれでもが迷

たつた一つ確かにわかるのは、教育が子どもの未来をほとんどいしあわせにするために営んでゆくとくじみな仕事であり、真に深い理知と愛にささえられる仕事だ——ということだ。みかけは子ども相手でのんきそうですが、朝のえがお一つが教室の一日にひびくことを考えても、限らない可能性を持つ教員に「わたしはまぢがった教育をしないよ」と責任を持って実践しなければならぬことかいらいつても、全く恐ろしい仕事です。弱いわたしは何度もやめたくなくるかわかりません。無心な子どもにとりまかれて「ああ、未来に生きる仕事なんだ」と思うとき、新しく勇気をわかしてはいるのだけれど…… (花村ゆき)

かかなも省略する。ただし、「打ち切る」「申し込み」とあとの語をかんで書く複合語は、前の動詞の送りがなを省かない、と例外にただし書きがつく複雑さである。ただし書きがどうも疑問だが、「行なう」「押さえる」「悔やしい」と原則どおりに送ることがどうしていけないのであろうか。誤脱・難読のおそれのある語は多く送り、そのおそれがなければ送るべきかなも省き、慣用の固定しているものはそれに従ふ。一見合理的に見えるこの方針も、実際には判断に迷つて、統一しないと同じ結果になりそうである。例外はできるだけ少なくすることが望ましいが、やむを得ないものは、その範囲を限定して、網羅的にはつきりと示し、だれでもが迷

たつた一つ確かにわかるのは、教育が子どもの未来をほとんどいしあわせにするために営んでゆくとくじみな仕事であり、真に深い理知と愛にささえられる仕事だ——ということだ。みかけは子ども相手でのんきそうですが、朝のえがお一つが教室の一日にひびくことを考えても、限らない可能性を持つ教員に「わたしはまぢがった教育をしないよ」と責任を持って実践しなければならぬことかいらいつても、全く恐ろしい仕事です。弱いわたしは何度もやめたくなくるかわかりません。無心な子どもにとりまかれて「ああ、未来に生きる仕事なんだ」と思うとき、新しく勇気をわかしてはいるのだけれど…… (花村ゆき)

たつた一つ確かにわかるのは、教育が子どもの未来をほとんどいしあわせにするために営んでゆくとくじみな仕事であり、真に深い理知と愛にささえられる仕事だ——ということだ。みかけは子ども相手でのんきそうですが、朝のえがお一つが教室の一日にひびくことを考えても、限らない可能性を持つ教員に「わたしはまぢがった教育をしないよ」と責任を持って実践しなければならぬことかいらいつても、全く恐ろしい仕事です。弱いわたしは何度もやめたくなくるかわかりません。無心な子どもにとりまかれて「ああ、未来に生きる仕事なんだ」と思うとき、新しく勇気をわかしてはいるのだけれど…… (花村ゆき)

うことなく、正確に書ける送りがな法を一日も速かに確立して欲しいものである。

かかわにし  
俳壇  
金山柏樹選  
中仙田 千月  
南天のもろくもこぼれ春日和  
春光を枝に分ちて並ぶ木々  
学校町 正風  
流雪の大なるチリまといつづ  
流雪のゆつくりまはりつづ傾き  
小白倉 凡石  
落椿ひろへば煙の集へ居し  
元町 鉄平  
雪尺余割つて苗田のあせ塗られ  
中仙田 竹治  
雪解水とどろき橋をパス渡る  
新町 赤庸  
節黒の松くるくるとおほるかな  
元町 東行  
春彼岸とま家の樫のかわきをり  
新力ナツかいによりません。  
・投句は川西町役場内金山柏樹あてに、シメキリは毎月末とします

ひとり思い出さずにはいられないなつた。ある夜下宿先にフロもらいにきた近所のおばあさんの、何気なくいつたことばがいまだに忘れられないのである。

「おばあさんは、わたしの三倍も長生きをしてられたわけですが今までの楽しかった思い出がいっぱいあるでしょうねえ」  
「先生様、オラがよのんなだめだつてが……」  
「でもお嫁に来たときとか、はじめてお孫さんの顔をみたときとかうれしかった思い出がたくさんあるんじゃないかしら」  
「そりいわれてみるとないはつかでもないよ」  
「その中でいちはん嬉しかつたものといつたらどんなことですか」  
「ソウダ……」  
まあ、隣りの衆が貧乏したときがいちはんうれしかつたや……  
△△△△△△△△△△△△△△△△  
○町財政の多難な中にも、本紙の発行費だけは増額されました。  
「町の姿を十分に知っていたいただきみなさんの声をよくお聞きして、明るい町にしてゆきたい」という中村町長の願いからです。  
○「広報かわにし」も本号から毎月一回、十日に発行することになりました。みなさまと役場のかけ橋として、よりよいものになることを誓います。  
○遠山のいただきに残り雪の美しく、土の香も新たな春とはなりました。  
春の園くれないにおう桃の花  
下照る道にいで立つおとめ  
(家伴 万葉集)